

第6回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式開催報告

「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として、平成28年度創設されました。

第6回受賞者研究発表会および授与式は、令和3年12月17日（金）10時30分から、文教キャンパス環境科学部大会議室において、執り行いました。

【受賞者】

優秀女性研究者賞 生命医科学域（薬学）
山吉麻子 教授

優秀女性奨励賞 熱帯医学研究所
中村梨沙 助教

長崎大学
第六回 長崎大学
未来に羽ばたく女性研究者賞
受賞者研究発表会および授与式

この「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として創設されました。

日時 令和3年12月17日(金)10:30~11:30
場所 文教キャンパス 環境科学部大会議室(1階)

受賞者
◇優秀女性研究者賞 山吉 麻子 教授 (生命医科学域(薬学系))
◇優秀女性奨励賞 中村 梨沙 助教 (熱帯医学研究所)

次第
1. 開式挨拶 吉田ゆり副学長/ダイバーシティ推進センター長
2. 受賞者研究発表
3. 授与式
4. 総評 刈野茂学長
5. 閉式挨拶 福本博慶理事

【お問い合わせ先】長崎大学 長崎大学 ダイバーシティ推進センター
TEL. 095-819-2889(内線:3151)
MAIL: omoval.staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

1. 開式挨拶（吉田ゆり副学長／ダイバーシティ推進センター長）

吉田副学長から、ご列席いただいた方々への御礼と本研究者賞の趣旨と概要説明があった。今年度で第6回を迎えた。また、非常にレベルの高い女性研究者の応募者の皆さんの中でも今回ひと際すばらしかった、優秀女性研究者賞と優秀女性奨励賞の受賞者二人が受賞された。本日はお二人の研究発表を拝聴して、私たちも勉強していきたいと締めくくられた。

2. 受賞者研究発表

優秀女性奨励賞

熱帯医学研究所 中村梨沙 助教

■報告内容

中村先生は、これまで「顧みられない熱帯病の病態解明と治療に向けた基盤研究」に取り組んできた。今回の発表では、その最新の研究について、「グループ2自然リンパ球はマウスアメーバ性肝膿瘍を増悪させる」というタイトルで、アメーバ性肝膿瘍の病態形成と重症化のメカニズムについて発表した。

■今後の研究

今後は、浸潤した好酸球・好中球のALAへの影響、ILC25による好中球の遊走・活性化機構の解明に取り組むことで、さらに詳しくアメーバ性肝膿瘍の病態形成とその重症化のメカニズムについて追求していく。

■このような賞と研究発表の機会をいただき光栄に思う。この受賞を励みに今後も研究に邁進していきたい。この研究を進めるにあたり、多くの先生方の協力を得た。感謝している。



優秀女性研究者賞

生命医科学域（薬学） 山吉麻子 教授

■報告内容

山吉先生はこれまで「副作用の無い薬を作りたい!」という思いで研究に取り組んできた。今回は「遺伝子の非コード領域を標的とした核酸医薬の創製と物質共生学の構築」というタイトルで発表した。核酸医薬の創製という新しいモダリティの創製は長年探究しているテーマであり、物質共生学については、自身の妊娠・出産の体験をもとに得た研究テーマだった。

■今後の研究

この物質共生学を長崎大学から発信していき、プラネタリー・ヘルスにも貢献してい



きたい。

■これまでの研究は私一人ではできなかった。関係者の皆様に深く感謝する。

3. 授与式

河野学長から受賞者のお二人に、表彰状、研究費としての副賞の目録、記念の盾が贈られた。



4. 総評（河野茂学長）

河野学長は、二人の女性研究者の発表は大変すばらしく、もはや「女性」だからという配慮は不必要であると称賛された。しかし、実力とは別に、女性たちが仕事以外に抱えているライフイベントが問題になる現実があるのも事実である。本学としては、その側面をサポートすることで、先生方が頑張ってくられたこの研究がますます進むことを願っていると述べられた。最後に、一緒に研究する人たちが、先生方の周りにもっと集まり、たくさんの研究者たちを牽引していただきたい、実力があれば大丈夫であると激励された。

5 閉式の言葉（福永博俊理事）

福永理事からは、まず二人に祝辞を述べた後、この研究者賞の背景に、長崎大学が JST からの支援を受けて女性が活躍できる大学を目指していることが述べられた。理事自身、第1回目から審査に加わっており、年々レベルが上がっており、難関になってきているとの実感を述べられた。確かに、数の増加はゴールではない。しかし、数値で見たときに、長崎大学の男女別の科研費採択率をみると、以前は男性の採択率が高かったが、平成28年以降、逆転して女性の方が高い。さらに、全国の女性採択率の平均よりも高くなっている。この研究者賞も、このような成果の一つ一つに寄与しているのではないかと述べられた。



（左から吉田ゆり副学長、永安武理事、山吉麻子教授、河野茂学長、中村梨沙助教、福永博俊理事、西田孝洋薬学部長）